

宇宙と私 | 宇宙はもう間近！ |

谷本 栄太郎

「えっ！？すごい！」

と声をあげた瞬間、ぼくの目には金星探査機「あかつき」のすがたを思いうかべていた。

「あかつき」は2010年五月二十一日に種子島宇宙センターから打ち上げられ、かんちょうに飛行していたが同年12月27日メインエンジンのとつせんの故し、うで金星周回軌道への投入へ失敗し太陽を周る人工惑星となっていたのだ。しかし2年もかけて軌道計算をしながら姿勢制御用エンジンを使って無事周回軌道の投入に成功した。

「すごい！JAXAの人は本当にすごい。とあらためて実感したのだ。そして2016年四月には本絡観測が開始した。✓そうです。軌道計算をしながら、姿勢制御用のエンジンを噴射するとき、探査機「あかつき」とJAXAの人たちの心が同じになった時、投入に成功したと思う。ぼくはとても感動した。

ぼくの将来の夢はスペースプレーンのような宇宙機の設計士だ。いつかはぼくの作った宇宙機で、宇宙をもっと身近に考えられるそんなざいにし、宇宙で楽しんでもらいたい。そんなぼくがあこがれるのはJAXAだ。JAXAでは航空機で宇宙へ行く計画が進んでいると書いていた。ぼくもJAXAでこの研究をして、いつかは普通に宇宙に行けるといいう世界を作りたい。

そしてJAXAはついに2016年末、水星磁気圏探査機(MMO)が打ち上げられ2020年にはあの小惑星探査機「はやぶさ2」がリュウグウ(1999 RY)から帰ってくる。ぼくはこう思う。もしも水星やリュウグウから地球が誕生する前の事が分かったら、ぼくたちの未来、人間と宇宙の関係はどうなるのだろう。JAXAの人たちが驚くような結果がでたら、ぼくたちの未来はどうなるのだろうか。今は宇宙開発が最初に行われてからすごい年月がたっている。しかし、宇宙の中でも分かっていることは、

まだごくわずかにしか過ぎない。そして自分で作つた宇宙機で宇宙に行けたらどんな感じなんだろう。そう考えるとますます早く宇宙機を作つて乗りたいなと思う。

昔は極限の世界と恐れられ人々は「宇宙」と聞いただけでふるえあがる人もいたという。しかし、ぼくは、今の宇宙は極限の世界でありながら未知の世界そして発見の世界と言えるだろう。今だに生物もかく認できていない未知の世界だが生物をたしかめるためにさまざま

さまざまな国が探査機を飛ばし、時には手がかりをつかむことだつてないとはだれもいえない。なぜなら、未知の世界というようにまだ見つかつていないだけで生物いや宇宙人がいないとも言えないからだ。

虫だつて同じだ。だれも新種はもういないとは言えない。なぜなら発見していかないだけでどこかにはいるかもしれないからだ。鳥だつて魚だつて同じだ。宇宙の中の地球に住み宇宙へ行き探査する人たちはもう分かつてい

るかもしれない。それは、答えは一つではな  
 い。まだ発見されていらないだけでいつかはじ  
 ようしきが変わるかもしれない。という事だ  
 地球と生命を生み出した偉大なる宇宙。そし  
 てこの地球は今、どんぞこの惑星になりかけ  
 ている。地球温暖化だ。46億年前、偉大なる  
 宇宙は地球という惑星を作り上げてくれた。  
 しかし今、この地球は人間が出す二酸化炭素  
 が原因で極限の世界になりつつある。この46  
 億年間せいじょうに保たれていた地球。これが  
 〽  
 〽  
 これからどうなるかこの問題をがい決するの  
 はぼくたちだ。今、できることは何だろう。  
 これを考えるのもぼくたちだ。今、できること  
 をやっていき、宇宙の中の生物のいる惑星と  
 いう形です。と地球がそんざいしてほしいと  
 ぼくは思う。人類の将来いや地球の将来そし  
 て偉大なる宇宙の将来を考えてぼくたちは生  
 きなければいけない。そして未来：ぼくの宇  
 宙機がきれいな地球を周リ偉大なる宇宙へ飛  
 び出す事を願っている。